

2026年3月期 第1四半期 決算説明資料

2025年8月5日

デクセリアルズ 株式会社



FY25.1Q 決算概要

FY25 業績見通し

見通しに関する注意事項

本資料に記載されている業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその達成を約束する趣旨のものではありません。実際の業績などは様々な要因により異なる可能性があります。

決算ハイライト

FY25.1Q 実績

売上高：261億円、事業利益：78億円（為替レート：144.6円/米ドル）

➤ **前年同期比では減収減益**

反射防止フィルム（ARF）などの高付加価値製品および光半導体の拡大により蛍光体フィルムの販売終息影響をカバーしたものの、成長領域である光半導体を中心とした固定費の増加により、為替を除くと売上横ばい減益

FY25 見通し

売上高：1,035億円、事業利益：290億円（為替レート：135.0円/米ドル）

➤ **年間の業績見通しに変更なし**

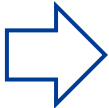
前期は自動車向け反射防止フィルム（ARF）などの影響で2Qがピークであったが、今期は3Qがピークとなる計画のため、上期は前期比で弱含む見通し
通期見通しに対しては順調に進捗しているものの、事業環境の不透明感が残るため、業績見通しに変更なし

決算概要

FY25.1Q (2025.4.1~2025.6.30)



FY25.1Q 主要最終製品の市場・当社動向（前年同期比）

最終製品	市場動向	当社動向	
タブレット			- 市場：前期並み - 当社：市場動向同様に前期並み
ノートPC			- 市場：買い替え需要が継続 - 当社：ハイエンド向け反射防止フィルム（ARF）の好調は継続したが、蛍光体フィルムの販売終息影響によりマイナス
スマートフォン			- 市場：前期並み - 当社：新モデルの量産開始後ろ倒しの影響があったが、ハイエンド向けセンサー関連製品の所要増により相殺
自動車			- 市場：前期並み - 当社：反射防止フィルム（ARF）において、前期は新規納入の積み上げがあった一方で、今期は採用モデルの拡大もあり前期並み

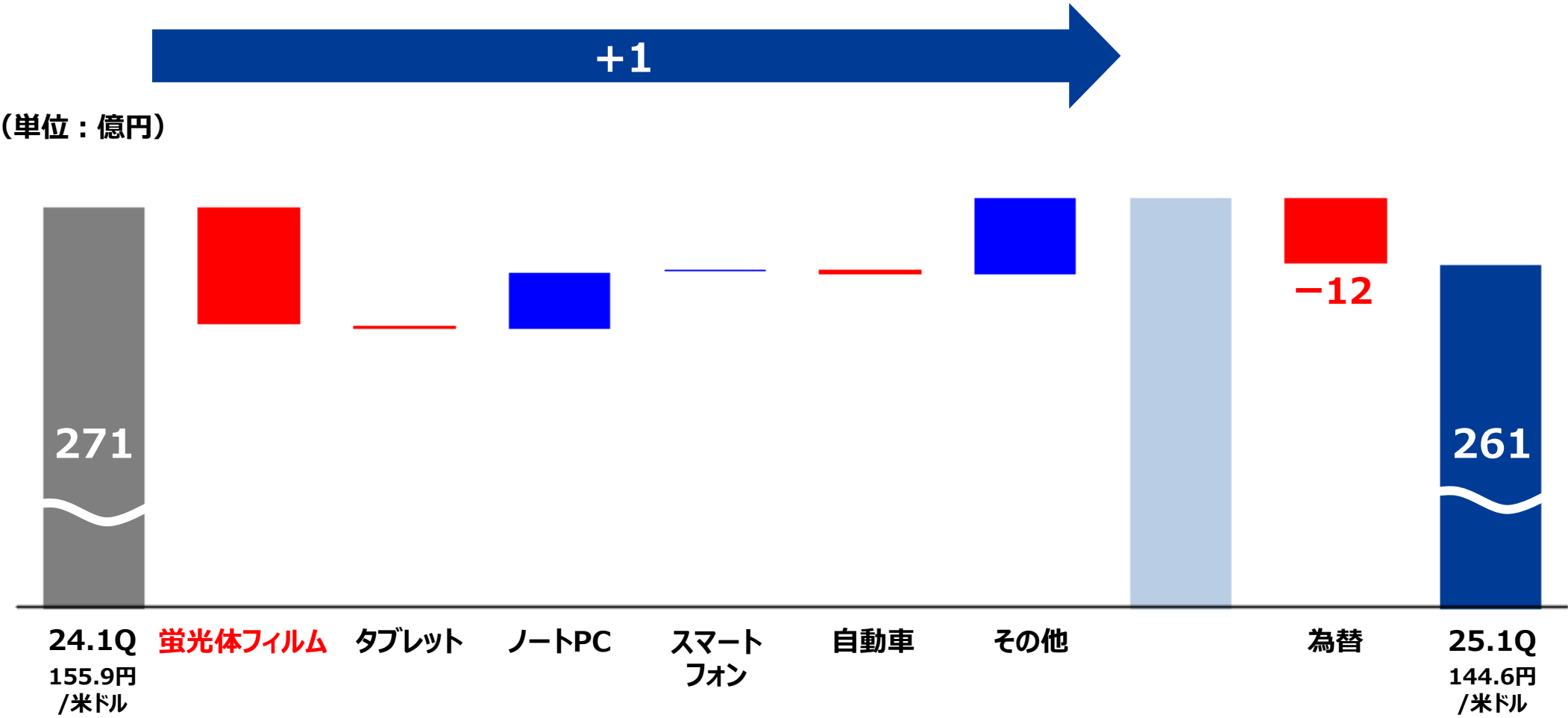
FY25.1Q 連結業績サマリー

(単位：百万円)	24.1Q	前年同期比 増減		
		25.1Q	為替変動の影響除く	
売上高	27,176	26,140	-3.8%	+0.7%
事業利益	9,595	7,899	-17.7%	-6.6%
営業利益	9,773	7,985	-18.3%	
税引前利益	9,538	7,709	-19.2%	
四半期利益	6,689	5,565	-16.8%	
1株当たり四半期利益	38.98円	33.14円	-15.0%	
EBITDA	11,204	9,667	-13.7%	-4.2%
EBITDAマージン	41.2%	37.0%	-4.2%Pt	-2.0%Pt

(注) 四半期利益は親会社の所有者に帰属する四半期利益に読み替え
1株当たり四半期利益は基本的1株当たり四半期利益に読み替え
1株当たり四半期利益：当社は2024年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っており、
上記1株当たり四半期利益はFY24期首に株式分割が行われたと仮定しての数値を記載しています
EBITDA = 事業利益 + 売上原価ならびに販売費及び一般管理費として計上される減価償却費

FY25.1Q アプリケーション別売上高増減（前年同期比）

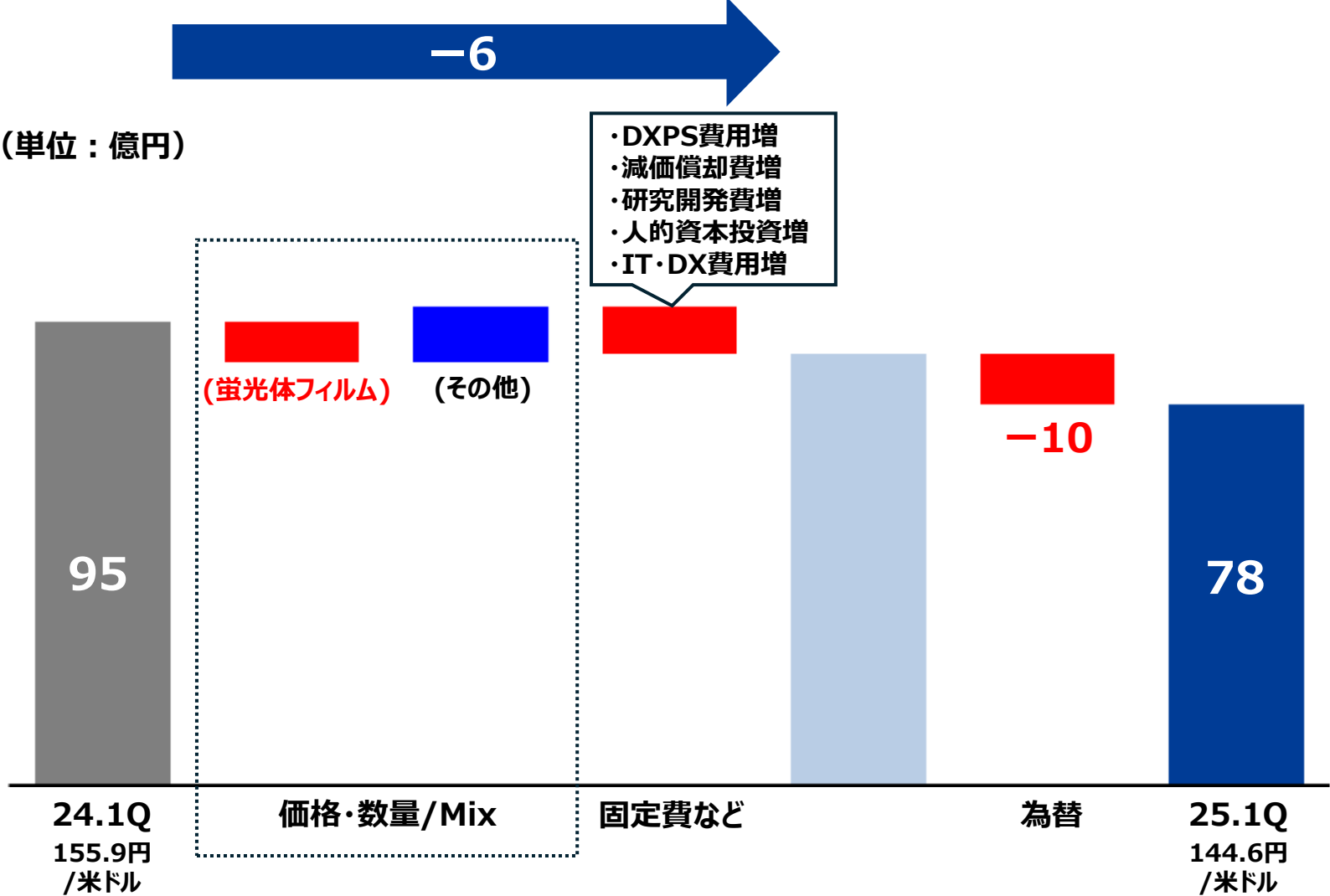
蛍光体フィルムの販売終息影響を、ノートPC向け反射防止フィルム（ARF）や光半導体などによりカバー



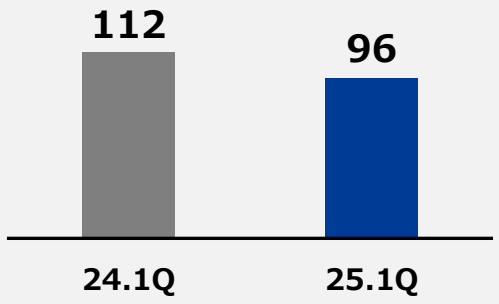
(注) 一部推定を含む
ノートPCはデスクトップモニターを含む

FY25.1Q 事業利益要因分析（前年同期比）

蛍光体フィルムの販売終息影響を、その他製品の拡大でカバーした一方で、成長領域である光半導体を中心とする固定費が増加



◆ EBITDA
(単位：億円)



(注) DXPSはフォトニクス領域を手掛ける当社連結子会社であるデクセリアルズ フォトニクス ソリューションズ株式会社の略称です

FY25.1Q 光学材料部品セグメント（前年同期比）

(単位：百万円)

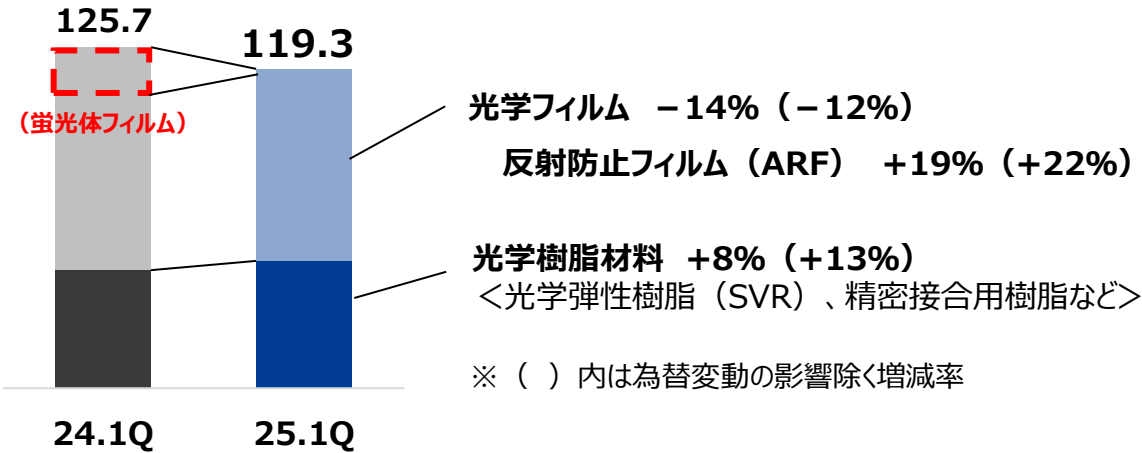
	24.1Q	25.1Q	前年同期比	
			増減	為替変動の影響除く
売上高	12,573	11,933	-5.1%	-1.6%
事業利益	3,641	3,329	-8.6%	+1.5%
EBITDA	4,489	4,161	-7.3%	+0.9%

〈主な増減要因〉

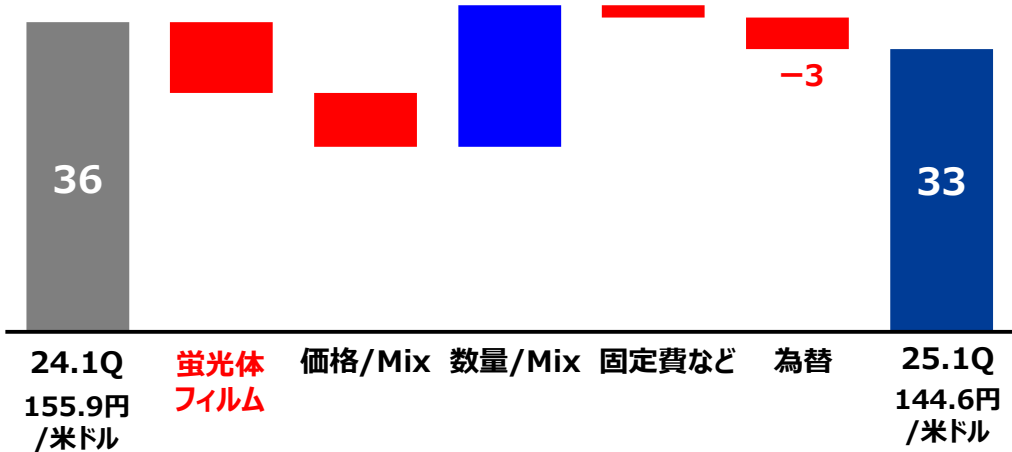
- 反射防止フィルム（ARF）：ノートPC用ディスプレイ向け製品の好調により増収
- 蛍光体フィルム：販売終息の影響
- 光学樹脂材料：精密接合用樹脂においてハイエンドモデルのスマートフォン向け製品の数量増により増収

(注) 光学材料部品セグメント売上高にはセグメント間取引を含む

◆ カテゴリー別売上高 (単位：億円)



◆ 事業利益変動要因 (単位：億円)



FY25.1Q 電子材料部品セグメント（前年同期比）

（単位：百万円）

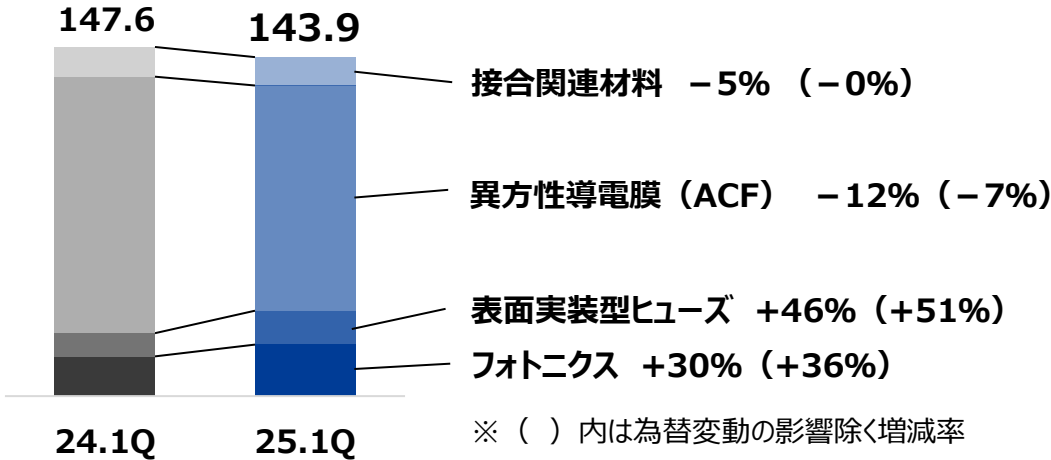
	24.1Q	25.1Q	前年同期比	
			増減	為替変動の影響除く
売上高	14,765	14,390	-2.5%	+2.7%
事業利益	5,953	4,570	-23.2%	-11.5%
EBITDA	6,715	5,505	-18.0%	-7.6%

〈主な増減要因〉

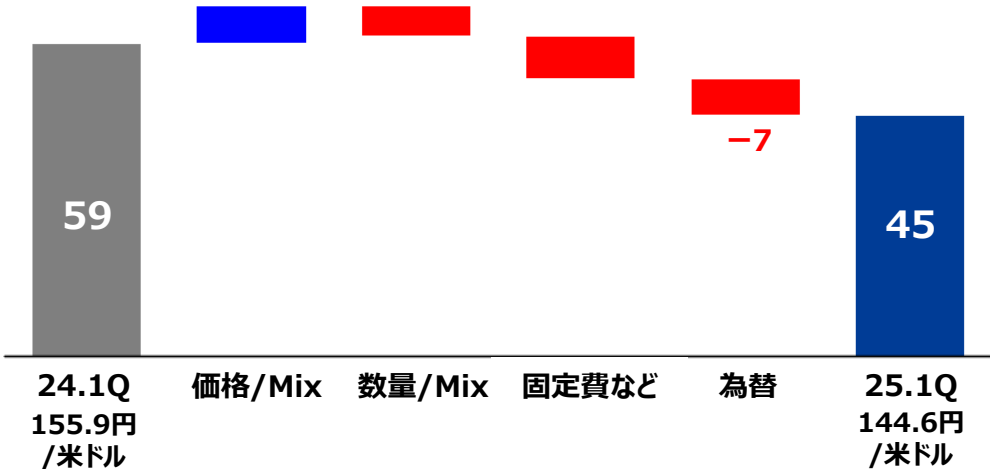
- 異方性導電膜（ACF）：スマートフォンにおける新モデルの量産開始後ろ倒しに加え、中国におけるスマートフォンの買い替え補助金により前四半期に前倒し需要が発生した影響などで減収
- 表面実装型ヒューズ：電動工具向け製品の主要顧客の在庫調整が前期終了したことに伴う生産回復、データセンター向けBBU案件の新規獲得により増収
- フォトニクス：データセンター向け光トランシーバー用製品の新規顧客への出荷数量の拡大などにより増収

（注）電子材料部品セグメント売上高にはセグメント間取引を含む
BBU：バッテリー・バックアップ・ユニット

◆ カテゴリー別売上高（単位：億円）



◆ 事業利益変動要因（単位：億円）



業績見通し

FY25 (2025.4.1~2026.3.31)



FY25 連結業績見通し：変更なし

(単位：百万円)	FY24	FY25見通し	前期比 増減	
	152.6円/米ドル	135.0円/米ドル	為替変動の影響除く	
売上高	110,390	103,500	-6.2%	+3.2%
事業利益	38,068	29,000	-23.8%	+1.1%
営業利益	39,735	28,000	-29.5%	
税引前利益	39,359	28,300	-28.1%	
当期利益	27,737	20,500	-26.1%	
1株当たり当期利益	162.04円	120.25円	-25.8%	
1株当たり配当額	58.0円	58.0円	0.0%	
配当性向	35.8%	48.2%		
DOE	10.9%	9.7%		
自己株式取得総額	9,999	1,000		
総還元性向	73.2%	-		
EBITDA	44,708	36,900	-17.5%	
ROIC	22.9%	14.4%	-8.6%Pt	
ROE	30.6%	20.3%	-10.3%Pt	

株式給付信託（BBT-RS）追加拠出分

中計期間累計で総還元性向60%をめど

(注) 当期利益は親会社の所有者に帰属する当期利益に読み替え
1株当たり当期利益は基本的1株当たり当期利益に読み替え
1株当たり当期利益：当社は2024年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っており、上記1株当たり当期利益はFY24期首に株式分割が行われたと仮定しての数値を記載しています
1株当たり配当額：当社は2024年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っており、上記1株当たり配当額はFY24期首に株式分割が行われたと仮定しての数値を記載しています
総還元性向 = (年間配当金総額 + インセンティブ目的の取得を除く自己株式取得総額) ÷ 当期利益 × 100
EBITDA = 事業利益 + 売上原価ならびに販売費及び一般管理費として計上される減価償却費

FY25 業績見通し セグメント別内訳：変更なし

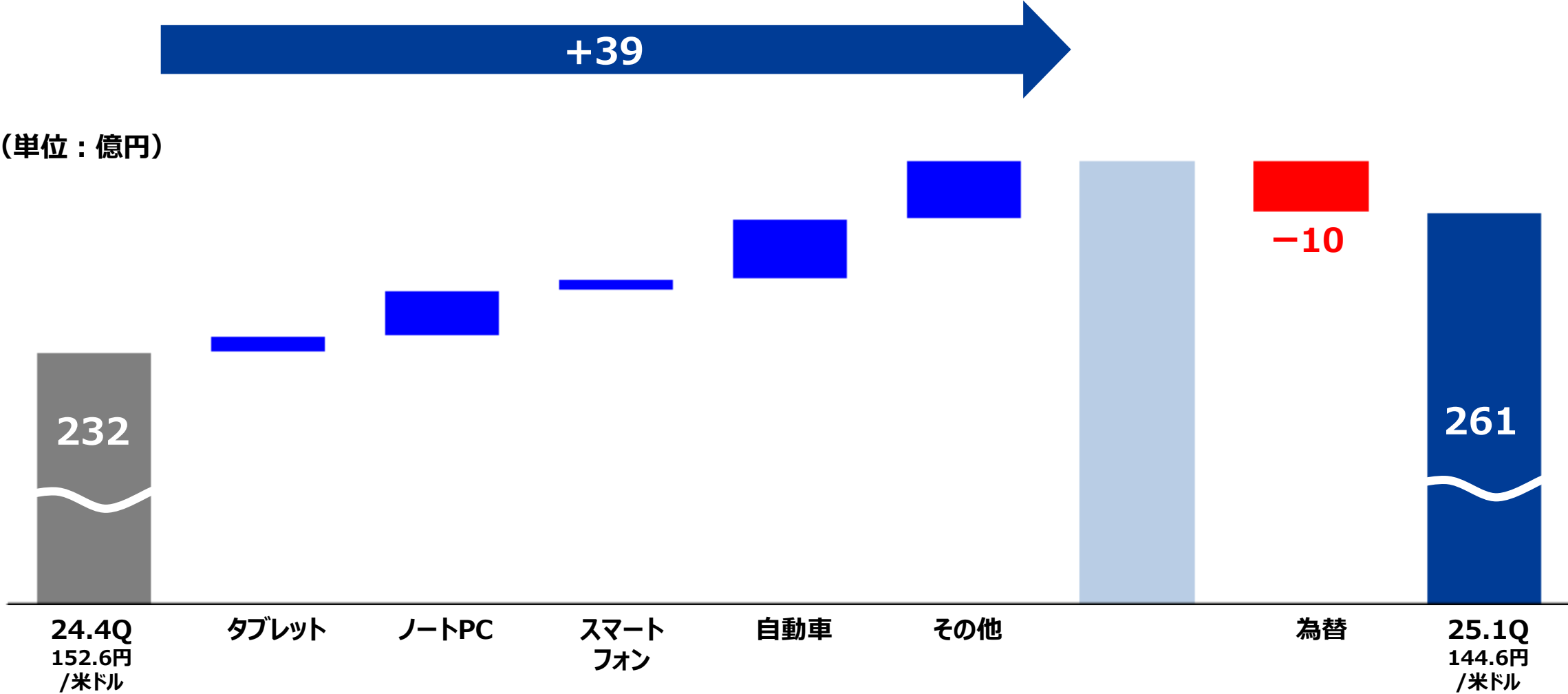
(単位：百万円)	FY24	FY25見通し	
	152.6円/米ドル	135.0円/米ドル	前期比増減
光学材料部品セグメント			
売上高	50,647	45,500	-10.2%
事業利益	14,556	10,000	-31.3%
事業利益率	28.7%	22.0%	-6.8%Pt
EBITDA	18,006	13,900	-22.8%
電子材料部品セグメント			
売上高	60,434	59,000	-2.4%
事業利益	23,511	19,000	-19.2%
事業利益率	38.9%	32.2%	-6.7%Pt
EBITDA	26,701	23,000	-13.9%
連結合計			
売上高	110,390	103,500	-6.2%
事業利益	38,068	29,000	-23.8%
事業利益率	34.5%	28.0%	-6.5%Pt
EBITDA	44,708	36,900	-17.5%

(注) 売上高にはセグメント間取引を含む

Appendix



FY25.1Q アプリケーション別売上高増減（前四半期比）



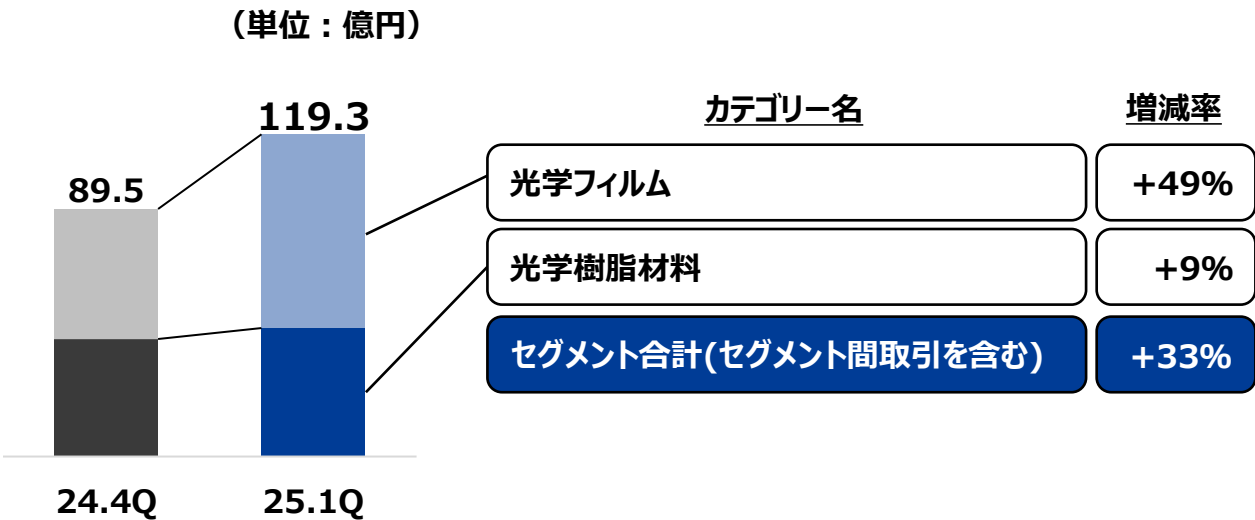
(注) 一部推定を含む
ノートPCはデスクトップモニターを含む

FY25.1Q セグメント別概況（前四半期比）

◆光学材料部品セグメント カテゴリー別売上高

(単位：百万円)

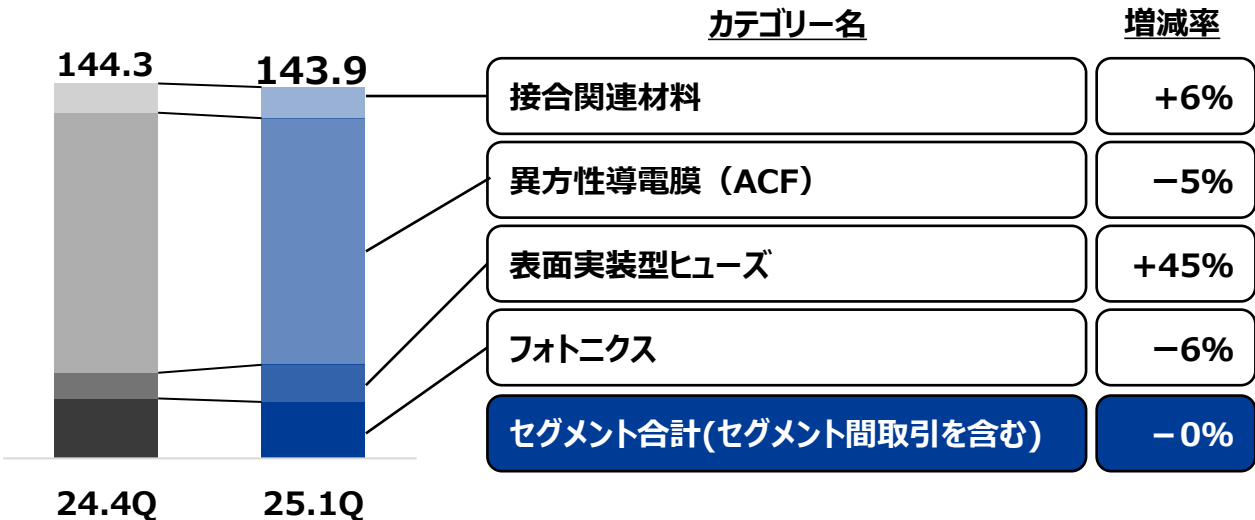
	24.4Q	25.1Q	増減率
売上高	8,951	11,933	+33.3%
事業利益	919	3,329	+261.9%
EBITDA	1,812	4,161	+129.6%



◆電子材料部品セグメント カテゴリー別売上高

(単位：百万円)

	24.4Q	25.1Q	増減率
売上高	14,434	14,390	-0.3%
事業利益	5,282	4,570	-13.5%
EBITDA	6,099	5,505	-9.7%



2025年6月末 連結財政状態

(単位：百万円)

	2025年 3 月末	2025年 6 月末	増減額
現金及び現金同等物	34,979	25,843	-9,136
流動資産	63,559	56,394	-7,164
有形固定資産	49,703	60,535	+10,831
非流動資産	88,262	98,599	+10,337
資産合計	151,821	154,993	+3,172
有利子負債	21,078	19,619	-1,459
負債合計	55,905	59,484	+3,579
資本合計	95,915	95,508	-406
負債及び資本合計	151,821	154,993	+3,172

ネットキャッシュ残高	13,901	6,224	-7,677
親会社所有者帰属持分比率	63.2%	61.6%	-1.6%pt
ネットD/Eレシオ	-0.14	-0.07	+0.08

FY25.1Q 連結CFサマリー

(単位：百万円)

	24.1Q	25.1Q	増減額
営業活動による キャッシュ・フロー	7,983	1,031	-6,952
投資活動による キャッシュ・フロー	-1,508	-2,092	-584
フリー・ キャッシュ・フロー	6,475	-1,061	-7,536
財務活動による キャッシュ・フロー	-5,025	-7,928	-2,902
現金期末残高	40,340	25,843	-14,497

(注) キャッシュ・フロー情報は投資家の皆様の利便性のために簡易的に作成した参考情報であり、実際の数値と異なることがあることをご了承ください

(参考) FY25.1Q 地域別売上高

(単位：百万円)

	24.1Q		25.1Q		増減額
	構成比		構成比		
日本	21.2%	5,773	51.7%	13,505	+7,732
中国	32.6%	8,849	24.6%	6,429	-2,419
韓国	13.1%	3,561	6.9%	1,804	-1,757
台湾	18.8%	5,110	8.9%	2,335	-2,775
その他	14.3%	3,880	7.9%	2,065	-1,815
海外	78.8%	21,402	48.3%	12,635	-8,767
合計	100.0%	27,176	100.0%	26,140	-1,035

(注) 日本につきましては、最終仕向地が海外となる、日本に所在する顧客への売上高が含まれております

2025年6月末 自己株式の保有状況

項目	発行済株式数に 占める割合	株式数
発行済株式数	100.0%	176,418,500株
普通株式（自己株式除く）	95.0%	167,623,839株
自己株式	5.0%	8,794,661株
インセンティブ目的以外で保有する自己株式数	0.0%	0株
インセンティブ目的として保有する自己株式数	5.0%	8,793,458株
株式給付信託（J-ESOP）	4.1%	7,178,800株
株式給付信託（BBT-RS）	0.4%	742,900株
譲渡制限付株式	0.5%	871,758株
その他	0.0%	1,203株

(参考) 四半期データ

(単位：百万円)

	日本基準		IFRS							
	FY21	FY22	FY23	1Q	2Q	3Q	4Q	FY24	1Q	FY25 見通し
売上高	95,712	106,167	105,198	27,176	32,458	27,528	23,226	110,390	26,140	103,500
事業利益	26,642	32,288	34,086	9,595	12,724	9,545	6,202	38,068	7,899	29,000
事業利益率	27.8%	30.4%	32.4%	35.3%	39.2%	34.7%	26.7%	34.5%	30.2%	28.0%
当期利益	16,669	20,685	22,575	6,689	9,167	7,499	4,381	27,737	5,565	20,500
1株当たり当期利益	91.54円	129.77円	129.76円	—	—	—	—	162.04円	—	120.25円
1株当たり配当額	20.0円	21.7円	33.3円	—	—	—	—	58.0円	—	58.0円
自己株式取得総額	3,999	8,999	5,999	—	—	—	—	9,999	—	1,000
総還元性向	42.3%	56.6%	53.3%	—	—	—	—	73.2%	—	—
経営指標										
EBITDA	32,478	39,101	39,386	11,204	14,360	11,231	7,912	44,708	9,667	36,900
ROIC	22.5%	24.4%	22.9%	—	—	—	—	22.9%	—	14.4%
ROE	28.5%	30.3%	29.5%	—	—	—	—	30.6%	—	20.3%
設備投資額	5,250	13,926	7,482	1,321	2,261	1,024	3,379	9,190	2,427	28,000
減価償却費	4,207	4,615	5,300	1,608	1,635	1,685	1,710	6,640	1,767	7,900
研究開発費	3,876	4,274	4,706	1,208	1,317	1,250	1,553	5,330	1,467	7,000
為替レート (円/米ドル)	112.4	135.5	144.6	155.9	149.4	152.4	152.6	152.6	144.6	135.0

(注) 当期利益は親会社株主に帰属する当期純利益（FY21, FY22）および親会社の所有者に帰属する当期利益（FY23、FY24、FY25見通し）に読み替え
FY21およびFY22は日本基準につき事業利益・事業利益率に替えて、営業利益・営業利益率を記載しています
IFRSの設備投資額はリース契約にかかる固定資産を除いています
FY25見通しの自己株式取得総額は株式給付信託（BBT-RS）の追加拠出分を記載しています
総還元性向の算出にはインセンティブ目的で取得する自己株式数を含めていません

(参考) 四半期データ (セグメント別)

(単位 : 百万円)

	日本基準		IFRS							
	FY21	FY22	FY23	1Q	2Q	3Q	4Q	FY24	1Q	FY25 見通し
光学材料部品セグメント										
売上高	49,159	55,384	51,453	12,573	16,624	12,499	8,951	50,647	11,933	45,500
事業利益	13,127	17,969	15,256	3,641	6,342	3,652	919	14,556	3,329	10,000
事業利益率	26.7%	32.4%	29.7%	29.0%	38.2%	29.2%	10.3%	28.7%	27.9%	22.0%
EBITDA	15,428	20,142	17,584	4,490	7,176	4,527	1,812	18,006	4,161	13,900
電子材料部品セグメント										
売上高	47,195	51,495	54,387	14,765	16,019	15,214	14,434	60,434	14,390	59,000
事業利益	15,304	16,106	18,830	5,953	6,381	5,893	5,282	23,511	4,570	19,000
事業利益率	32.4%	31.3%	34.6%	40.3%	39.8%	38.7%	36.6%	38.9%	31.8%	32.2%
EBITDA	17,049	18,958	21,802	6,715	7,183	6,703	6,099	26,701	5,505	23,000
連結合計										
売上高	95,712	106,167	105,198	27,176	32,458	27,528	23,226	110,390	26,140	103,500
事業利益	26,642	32,288	34,086	9,595	12,724	9,545	6,202	38,068	7,899	29,000
事業利益率	27.8%	30.4%	32.4%	35.3%	39.2%	34.7%	26.7%	34.5%	30.2%	28.0%
EBITDA	32,478	39,101	39,386	11,204	14,360	11,231	7,912	44,708	9,667	36,900

(注) 売上高にはセグメント間取引を含みます
FY21およびFY22は日本基準につき事業利益・事業利益率に替えて、営業利益・営業利益率を記載しています

ESG 外部評価・その他

「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index*」

2025年6月
構成銘柄に連続選定



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

英国FTSE Russell 社が提供するグローバル基準を満たす日本企業を対象としたESG投資株価指数

「MSCI** 日本株ESGセレクト・リーダーズ指数」 「MSCI** 日本株女性活躍指数（WIN）」

2025年6月
構成銘柄に連続選定
2025年6月
構成銘柄に連続選定

2025 CONSTITUENT MSCI日本株
ESGセレクト・リーダーズ指数
2025 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

「JPXプライム150指数」

2024年9月
構成銘柄に初選定



価値創造が推定される我が国を代表する企業で構成される指数

GPIF「優れた統合報告書」

2025年3月
GPIFの国内株式運用機関が選ぶ「優れた統合報告書」に
『デクセリアルズ統合レポート2024』が初選出（78社/約1,200社）

「JPX日経インデックス400」

2024年8月
構成銘柄に3年連続で選定



JPX-NIKKEI 400

株式会社JPX総研及び株式会社日本経済新聞社が共同で算出するインデックス

「SOMPOサステナビリティ・インデックス」

2025年6月
構成銘柄に連続選定
SOMPOアセットマネジメント株式会社が
独自に設定するアクティブ・インデックス

2025



Sampo Sustainability Index

「健康経営優良法人2025（大規模法人部門）」

2025年3月
5年連続で認定



2025
健康経営優良法人
KENKO Investment for Health
大規模法人部門

「IRウェブサイト調査」

2025年1月
主要3社で
高評価獲得



*登録商標 FTSE Russellについて：FTSE Russell（FTSE International Limited と Frank Russell Companyの登録商標）は、ここにデクセリアルズ株式会社が第三者調査の結果、FTSE Blossom Japan Sector Relative Index組み入れの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄となったことを証します。FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexはサステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用されます。

**デクセリアルズがMSCIインデックスに採用されていること、及びMSCIのロゴ、商標、サービスマークまたはインデックス名の使用は、MSCIまたはその関連会社によるデクセリアルズへの後援、保証、販促には該当しません。MSCIインデックスはMSCIに独占権があり、MSCI、MSCIインデックス名及びロゴは、MSCIまたはその関連会社の商標もしくはサービスマークです。

Our Purpose & Sustainability

Purpose

Empower Evolution.

つなごう、テクノロジーの進化を。

Empower Evolution.

Connect People and Technology.

Materiality

「技術」と「人財」の強化

10年後のありたい姿

- より広い領域でデジタル・テクノロジーの進化に貢献
- 社会的価値と経済的価値を創出し、持続的成長を実現

人と技術をつなごう。
社会と希望をつなごう。

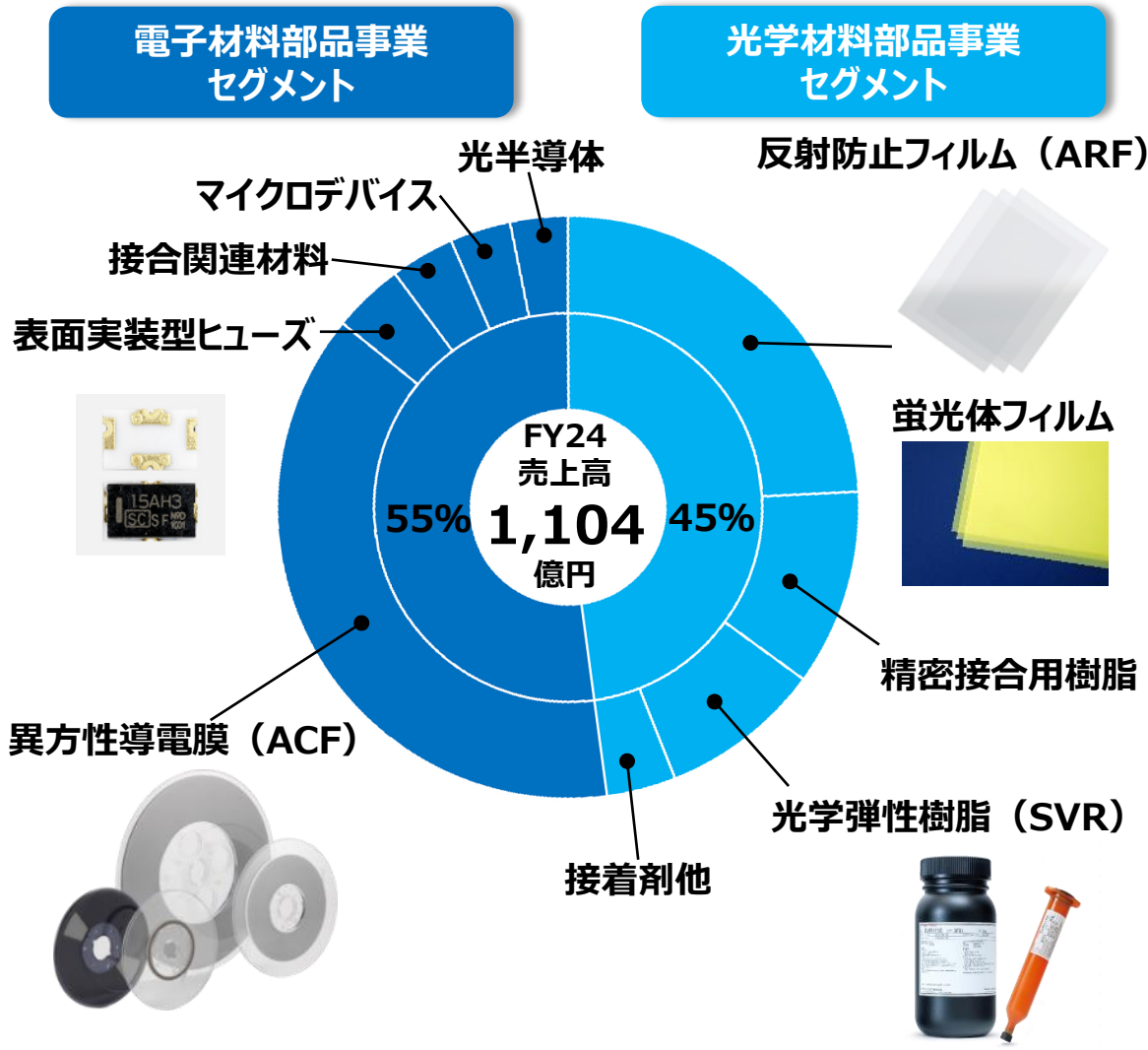
デジタルテクノロジーの
進化に欠かせない材料やデバイス、
ソリューションを生み出して、
ここから世の中を変えていこう。

私たちデクセリアルズは、
お客さまと一緒に明日を思い描き、
課題を一つひとつ解決していく。
技術と人を巧みに掛け合わせ、
新たな進化を生み出していく。

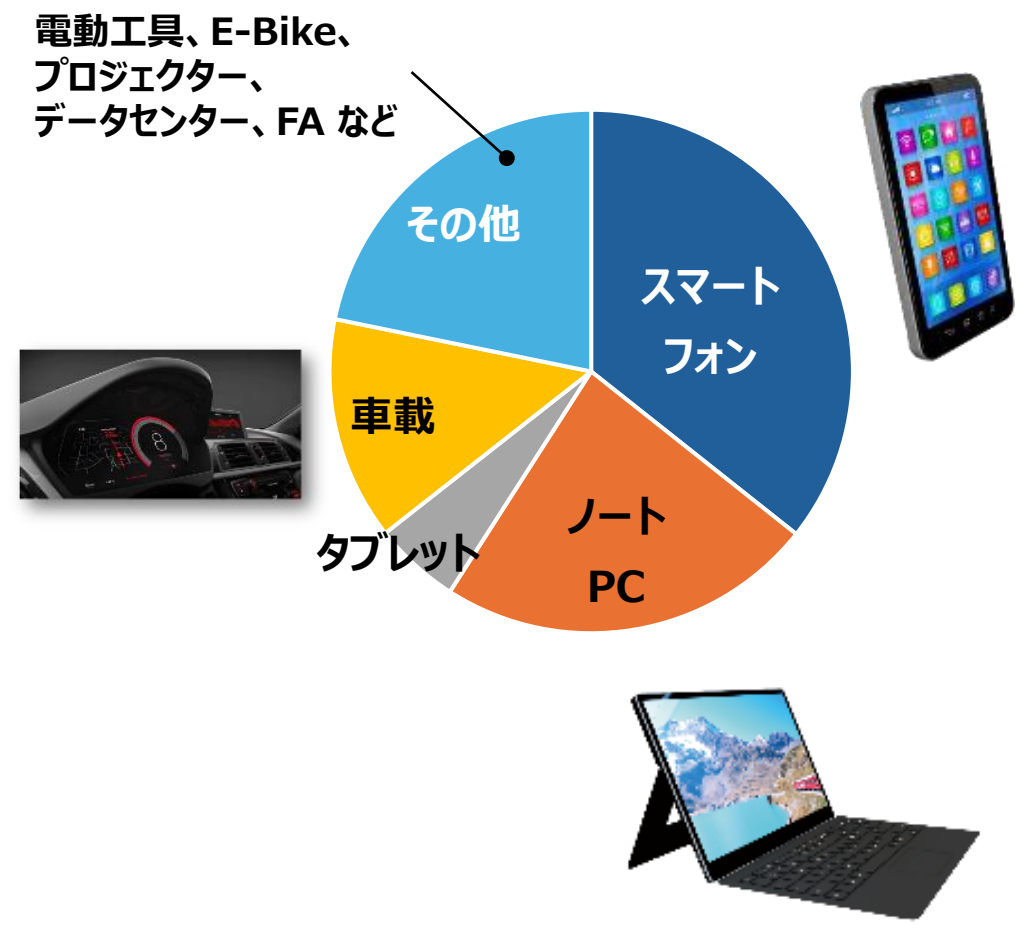
さあ、今日も挑戦しよう。
もっと豊かで、もっと効率的な社会へ。
あらゆるステークホルダーが、
いつまでも心地よく暮らせる世界を目指して。

売上高構成

■ カテゴリー別売上高 (FY24)



■ アプリケーション別売上高 (FY24)



当社製品×最終製品

反射防止フィルム（ARF）



ノートPCディスプレイなどの光学機器の表面で発生する光の反射を抑制することで視認性の悪化を防止するための光学フィルムです

光学弾性樹脂（SVR）

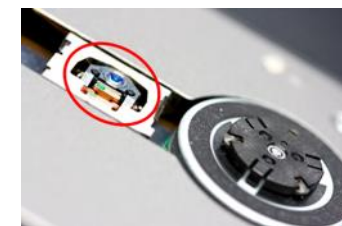


スマートフォン・タブレット・ノートPCなどのディスプレイ内部にあるエアギャップを埋め、光の屈折・反射を抑える紫外線硬化型の弾性樹脂です

精密接合用樹脂



カメラモジュール



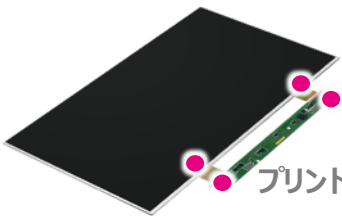
光ピックアップ

紫外線、熱、紫外線＋熱で硬化する接合用樹脂です。低温短時間での硬化と低収縮を実現する、スマートフォンなどのカメラやセンサーのモジュールの精密接合に最適な接着剤です

異方性導電膜（ACF）



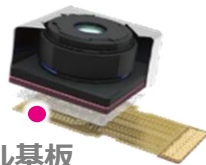
● 異方性導電膜（ACF）



大型ディスプレイ
（TV）



中小型ディスプレイ
（スマホ・タブレット・
ノートPC）



カメラ
モジュール

ほぼ全てのフラット パネル ディスプレイで使われるデファクト・スタンダードの接合材料です。熱硬化性の樹脂に導電粒子を分散させた導電性の接着フィルムで、ドライバーICやセンサーモジュールと、基板を導電接続します

表面実装型ヒューズ



リチウムイオンバッテリー搭載の電子機器を安全に使用するための二次保護回路ヒューズです。リチウムイオンバッテリーの「過電流」と「過充電」時にヒューズエレメントを溶断することで電池の安全性を向上させます

当社製品×最終製品

異方性導電膜（ACF）



光学弾性樹脂（SVR）



反射防止フィルム（ARF）



自動車ディスプレイ



ディスプレイの電子化や画面の大型化・高精細化により、高い反射防止機能と防汚性能を持つ当社の反射防止フィルム（ARF）の採用が進んでいます。その他にも、光学弾性樹脂（SVR）や異方性導電膜（ACF）なども自動車ディスプレイ向けに伸長しています

精密接合用樹脂



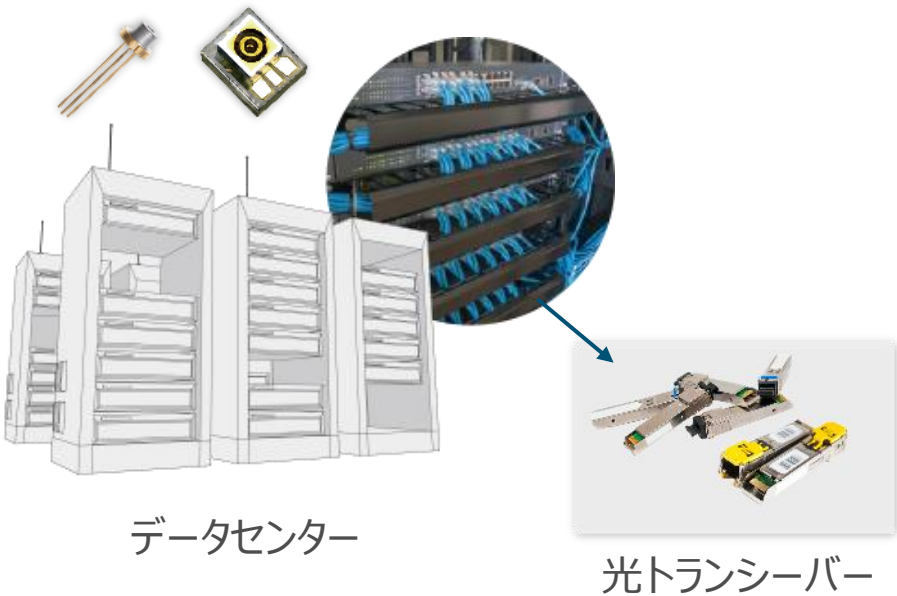
車載センサー



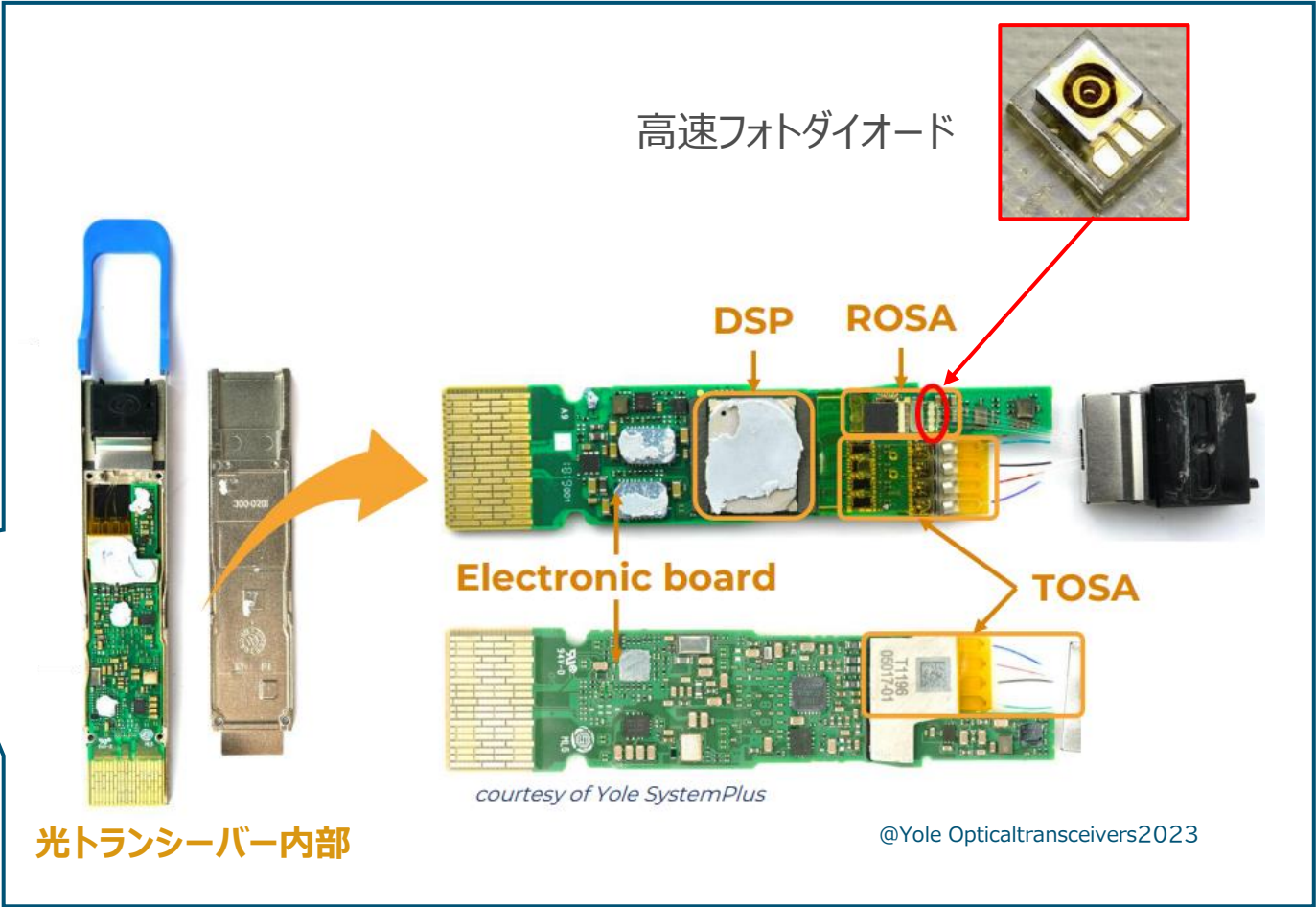
先進運転支援システム（ADAS）の進化に伴い、自動車一台当たりの車載センサーの搭載数が増加しており、センサーモジュール向けに当社の精密接合用樹脂の採用が進んでいます

当社製品×最終製品

光半導体デバイス



電気を光に、光を電気に変換する半導体素子を総称して「光半導体」と呼び、これらが組み込まれた電子部品が光半導体デバイスです。各種データセンター向け光トランシーバーなどに当社製品が採用されています



主力製品はニッチな市場で世界シェア**No.1**

世界シェアトップの機能性材料が安定した成長の源泉



異方性導電膜 (ACF)

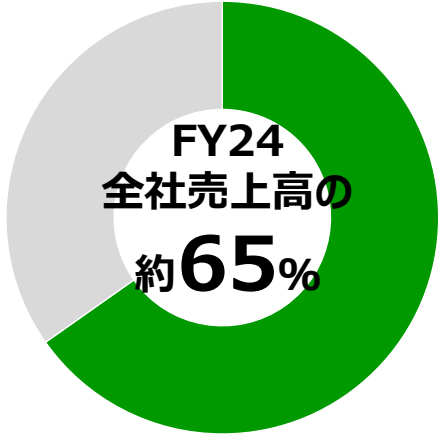


反射防止フィルム (ARF)



光学弾性樹脂 (SVR)

主力3製品の売上高

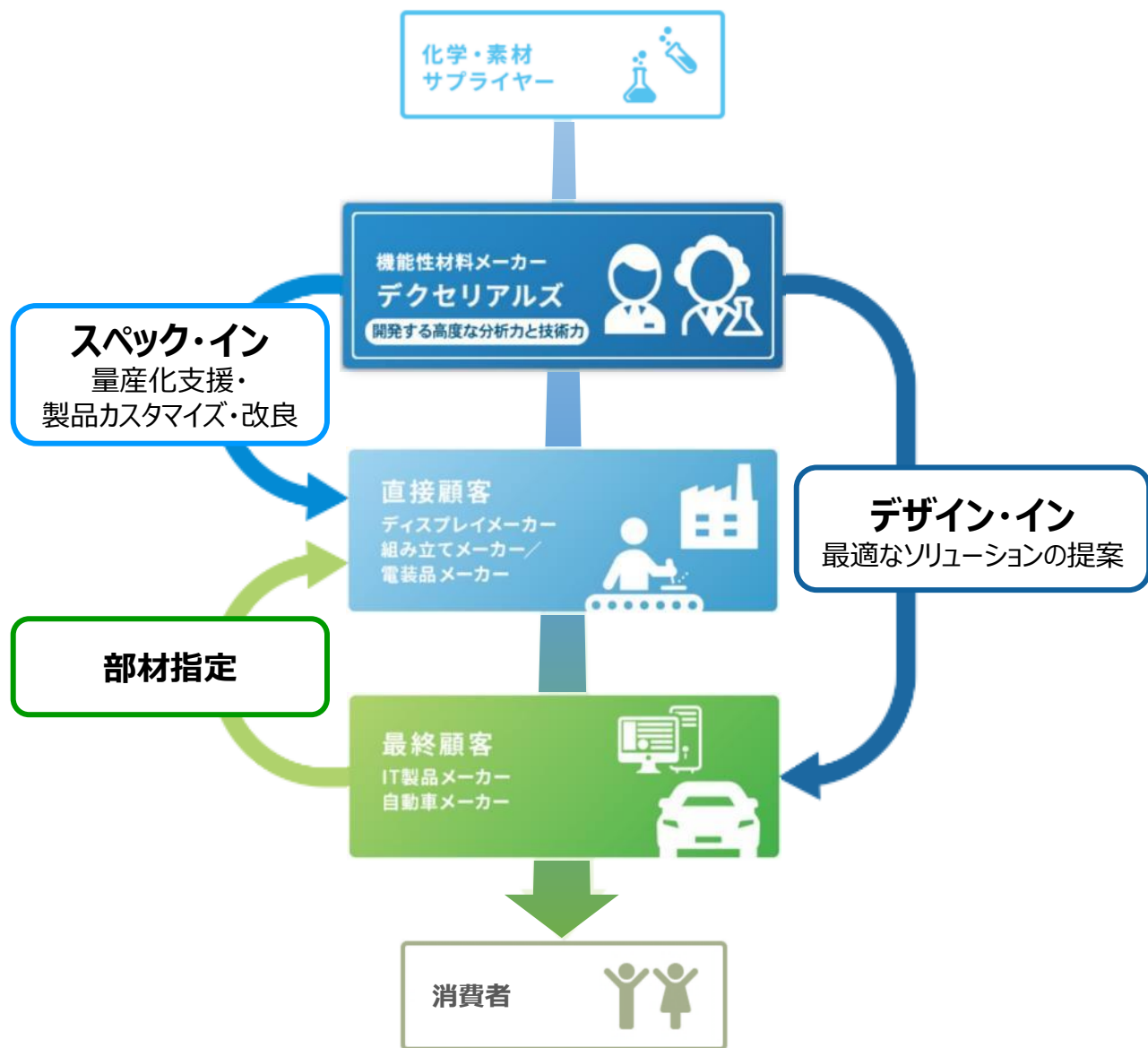


海外売上高比率 (FY24)

約67%

※1: 株式会社富士キメラ総研発行「2025ディスプレイ関連市場の現状と将来展望」による、大型および中小型ディスプレイ向けACFの合計の2024年の金額シェア。
※2: 株式会社富士キメラ総研発行「2025ディスプレイ関連市場の現状と将来展望」による、表面処理フィルム（ドライコート）の2024年の金額シェア。
※3: 株式会社富士キメラ総研発行「2025ディスプレイ関連市場の現状と将来展望」による、ディスプレイの貼り合わせで使用される光学透明接着剤（OCR/LOCA）の2024年の金額シェア。光学弾性樹脂（SVR）は、光学透明接着剤の当社製品名です。

当社のビジネスモデル – シングルソース製品の創出 –



当社独自のアプローチ：デザイン・イン

**市場に近い最終顧客に直接アプローチし、
未来の技術動向に対する顧客のインサイトをもとに
最適なソリューションを開発・提案**

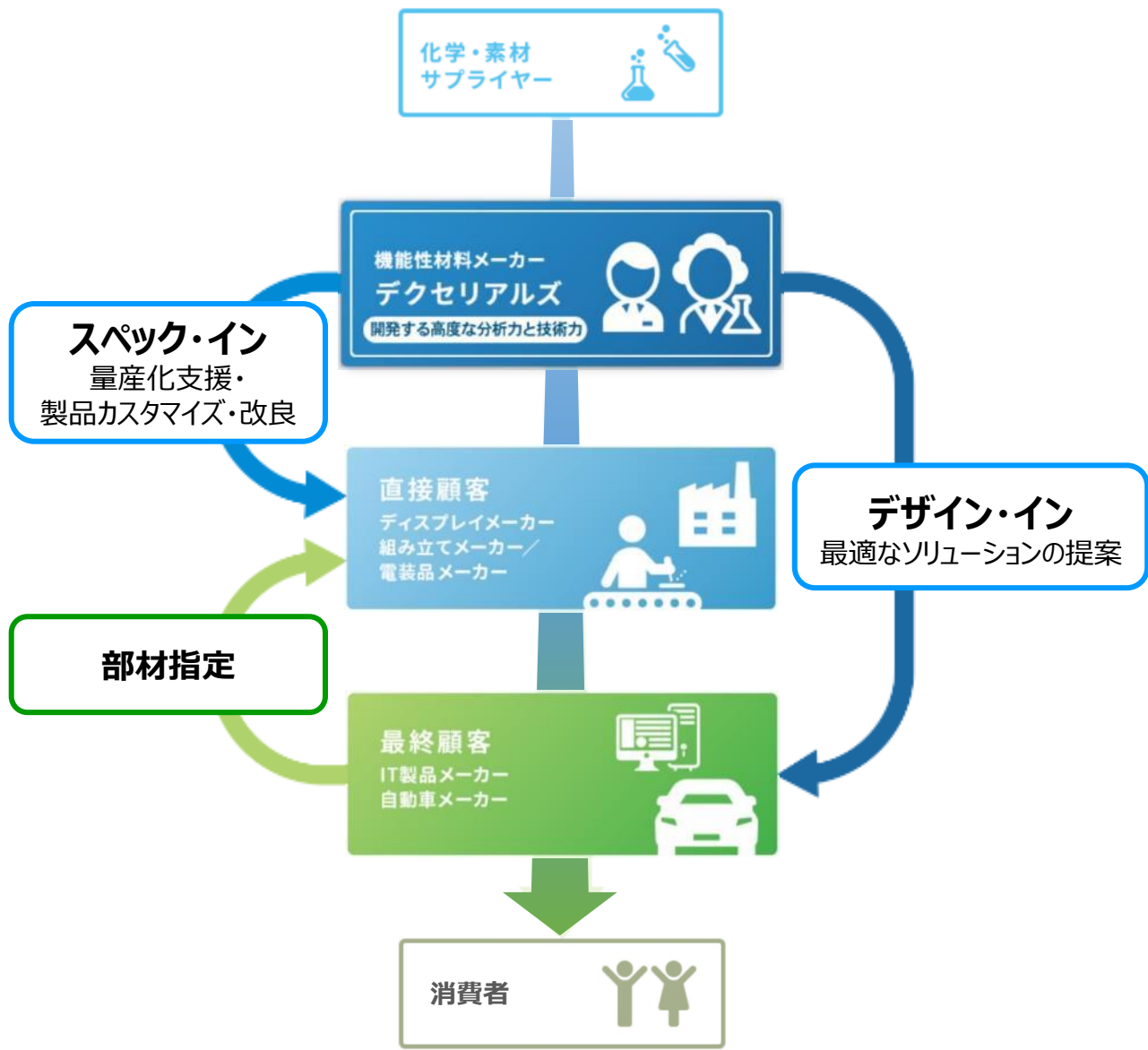
シングルソース製品として部材指定

シングルソース製品の拡大

**新たな市場を創出し、技術力・特許取得による高い
参入障壁を構築することで、強い価格決定力を維持**

ニッチな市場で高いシェアと 高い収益性を維持

当社のビジネスモデル – 新規領域にも展開、持続的成長へ –



ビジネスモデルが生み出すソリューション

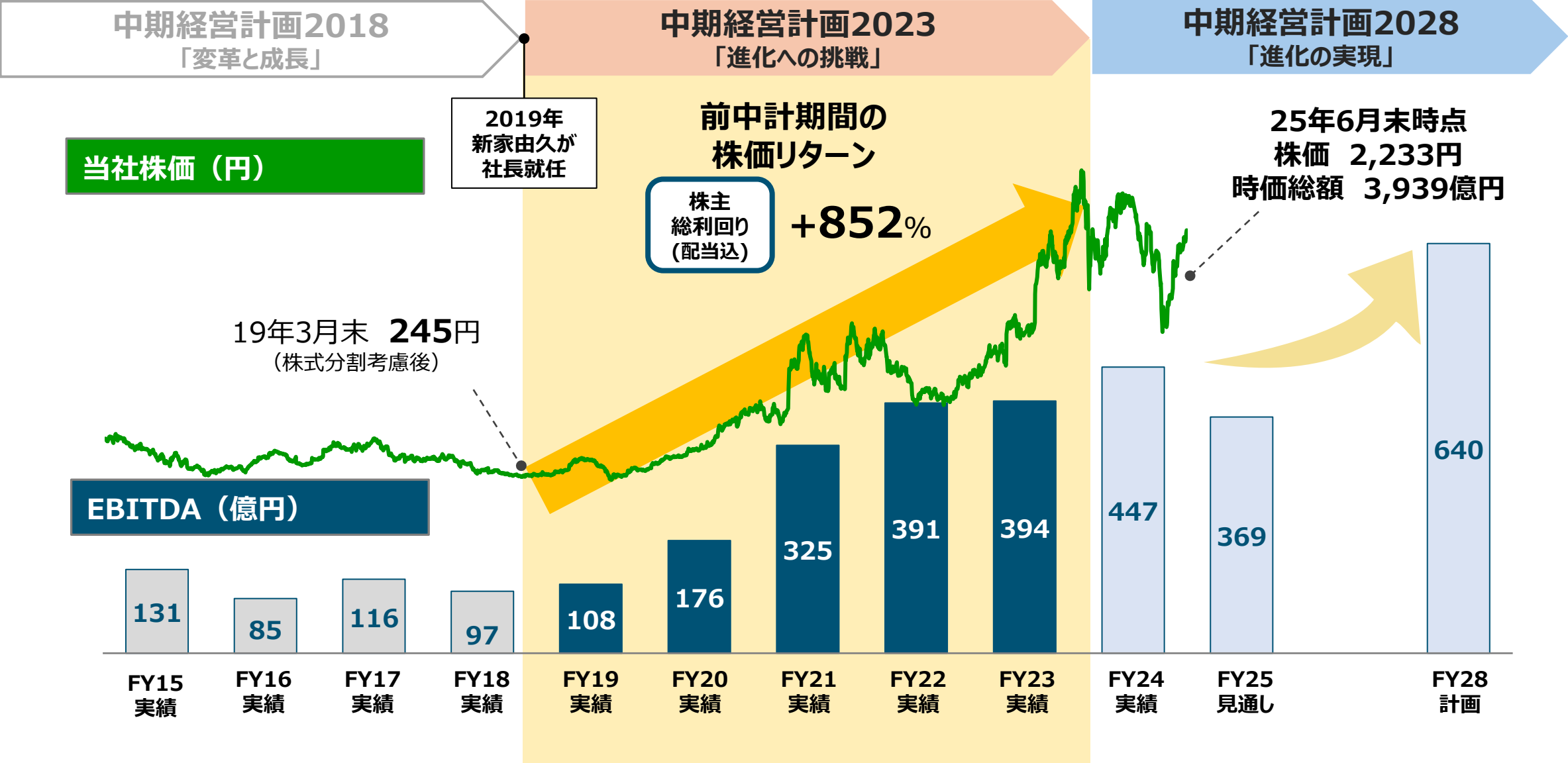
- 社会の効率を実現する技術の進化に不可欠
- 経済価値と社会価値を創出し、サステナブルな成長が可能に

ビジネスモデルを新規領域へ展開し、持続的な成長を達成していく

- 今後社会課題の解決に必要な技術の進化が求められる自動車やフォトリソの領域へ、当社のビジネスモデルを展開

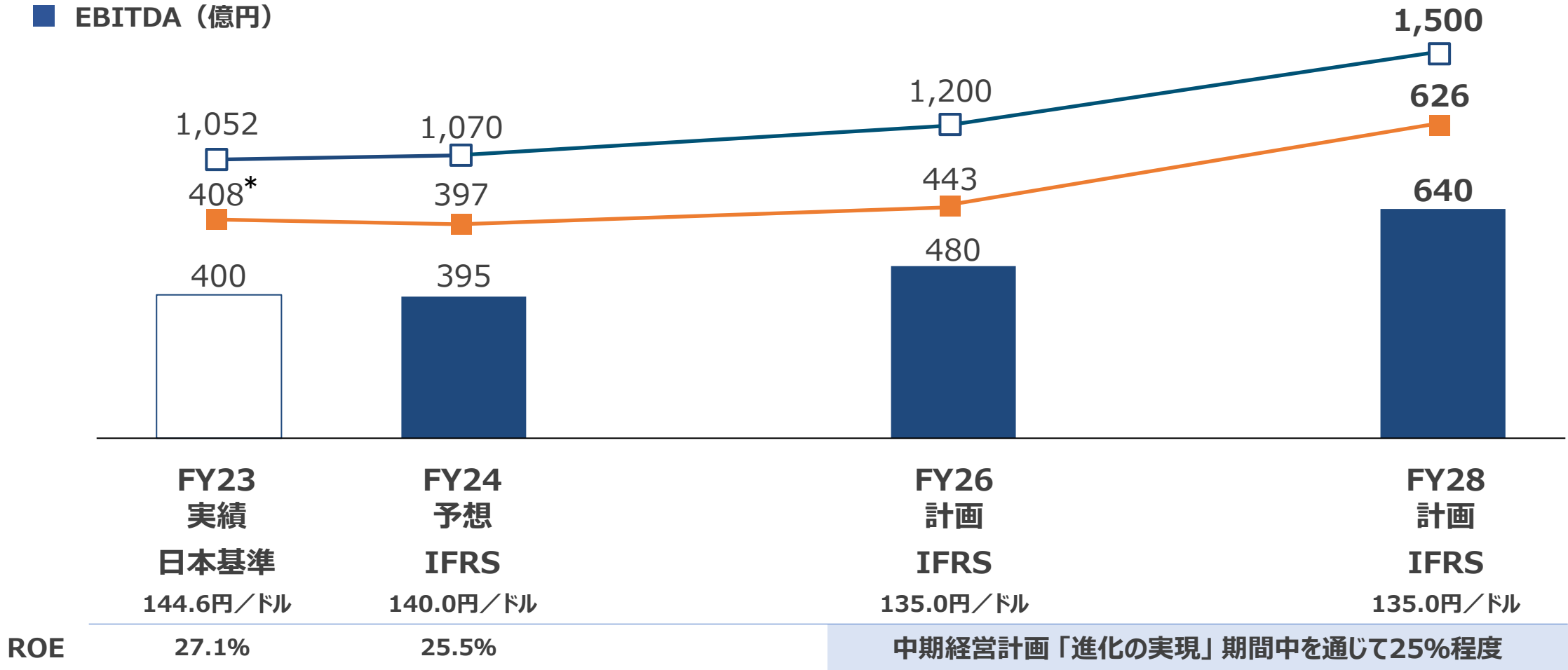


株価とEBITDAの推移



□ 売上高（億円）
■ EPS（円、株式分割前）
■ EBITDA（億円）

位置づけ
成長投資と株主還元の両立により
持続的成長と企業価値向上を実現する

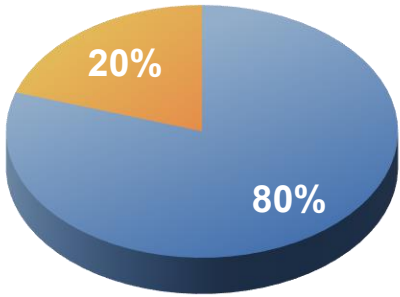


* のれん償却前EPS

中期経営計画2028「進化の実現」における事業成長

2023年度（実績）

売上高
1,052 億円

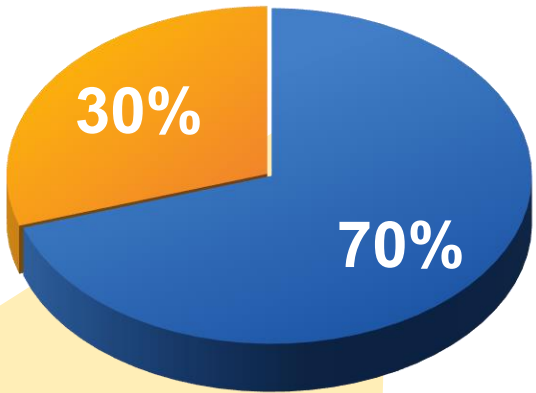


■ 既存領域
■ 成長領域

既存領域：エレクトロニクス事業など
成長領域：自動車事業、フォトニクス事業

2028年度（計画）

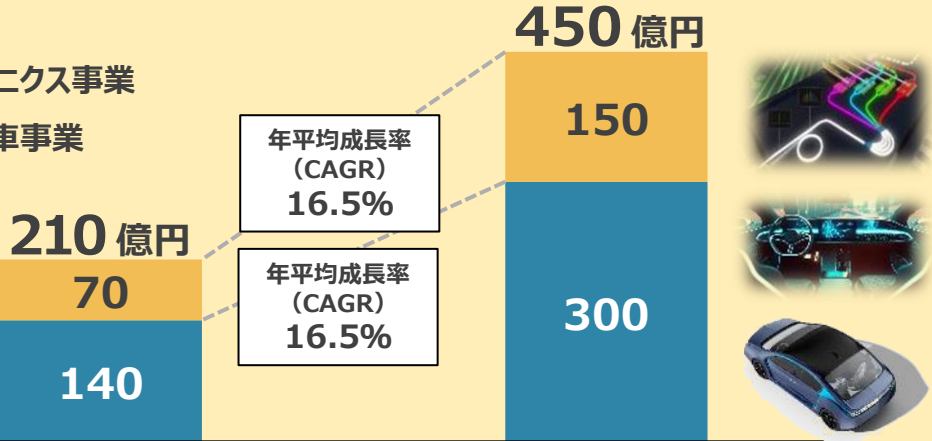
売上高
1,500 億円



成長領域 事業規模（売上高）

（億円）

■ フォトニクス事業
■ 自動車事業

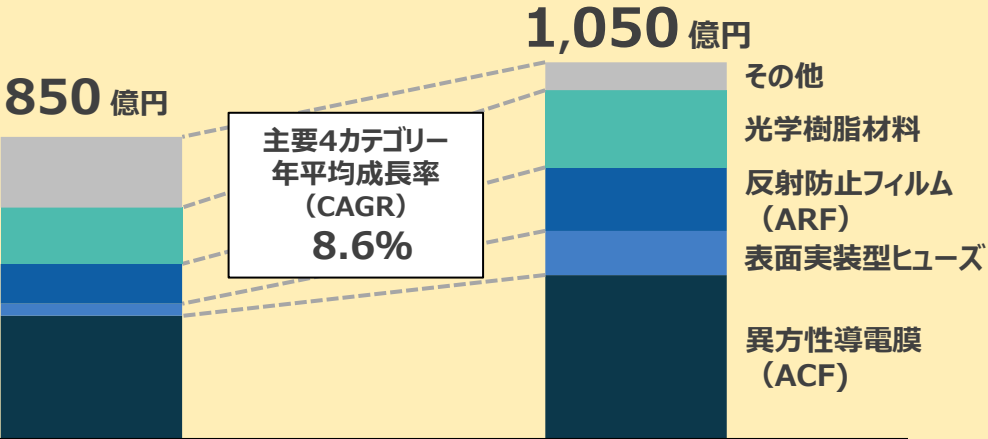


FY23（実績）

FY28（計画）

既存領域 事業規模（売上高）

（億円）

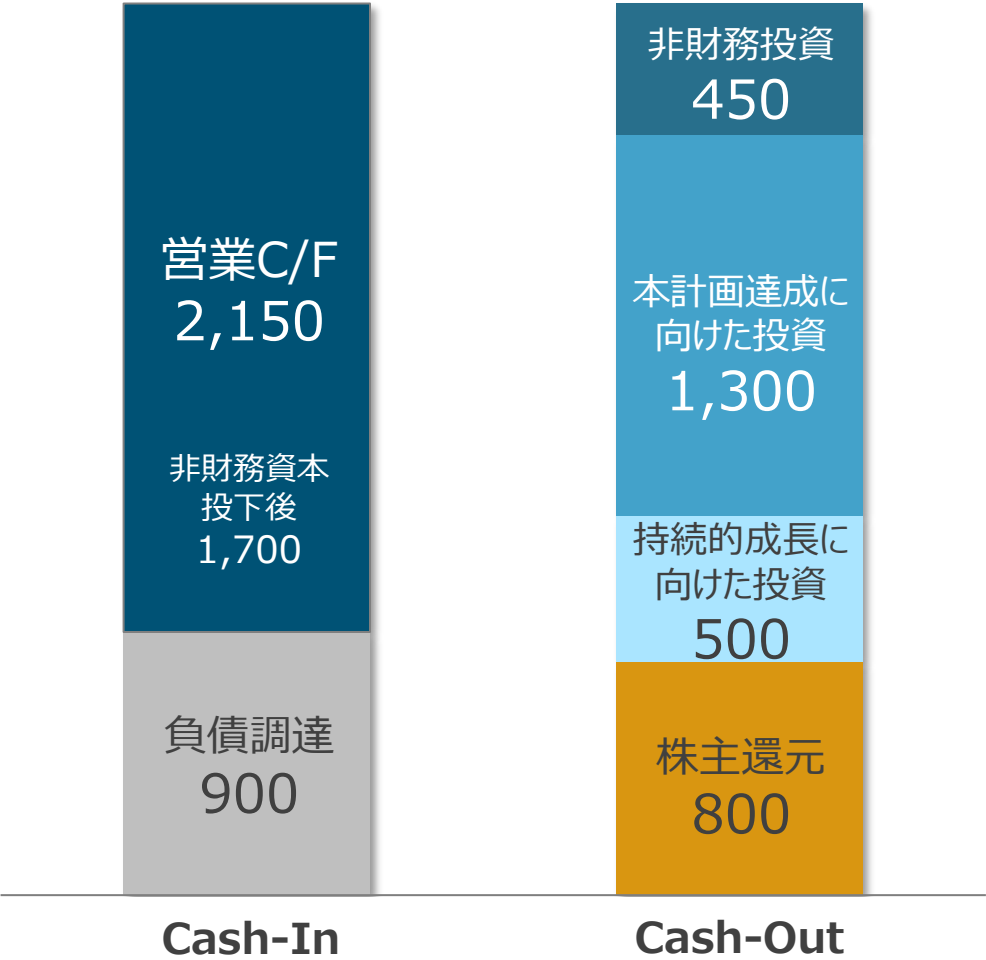


FY23（実績）

FY28（計画）

最適資本構成を踏まえた成長投資と株主還元の両立

中期経営計画期間 5年間累計 (億円)



非財務投資	■ マテリアリティである「 <u>人・技術</u> 」への投資
本計画達成に向けた投資	■ 前中計の「 <u>約3倍</u> 」の投資を計画
	■ ROIC目標 14%程度
持続的成長に向けた投資	■ 蓋然性が高まった際の「 <u>追加投資枠</u> 」を確保
	■ 投資機会がない場合は追加還元を検討
株主還元	■ 総還元性向「 <u>60%</u> 」を目途に還元 (5年間累計)
	■ 配当性向 40%を目途として、DOE7%下限とする方針
財務戦略	■ Net D/E:0.45x、自己資本比率:50%を目安 (FY28)

先進的なコーポレート・ガバナンス体制

- ✓ 2019年～
 - ・ 指名・報酬委員会の設置
- ✓ 2021年～
 - ・ 監査等委員会設置会社へ移行
 - ・ 取締役報酬の評価基準にTSRを採用
- ✓ 2024年～
 - ・ 株式報酬制度に譲渡制限付株式を活用
 - ・ 代表取締役の報酬構成の見直し

金銭報酬		株式報酬
固定報酬 30%	変動報酬 70%	
基本報酬 30% 見直し前: 50%	STI 30%	LTI 40% 見直し前: 20%

取締役会



新家 由久
代表取締役社長



北所 克史
代表取締役



細谷 和男
取締役



田口 聡
取締役



萩原 利仁
取締役

監査等委員会



加賀谷 哲之
取締役
監査等委員長



谷口 正人
取締役
常勤監査等委員



中山 代志子
取締役
監査等委員

社内
3名

社外
5名

2012年ソニーから独立。2015年上場



※1: 株式会社富士キメラ総研発行「2025ディスプレイ関連市場の現状と将来展望」による、大型および中小型ディスプレイ向け異方性導電膜（ACF）の合計の2024年の金額シェア。
※2: 株式会社富士キメラ総研発行「2025ディスプレイ関連市場の現状と将来展望」による、表面処理フィルム（ドライコート）の2024年の金額シェア。
※3: 株式会社富士キメラ総研発行「2025ディスプレイ関連市場の現状と将来展望」による、ディスプレイの貼り合わせで使用される光学透明接着剤（OCR/LOCA）の2024年の金額シェア。
光学弾性樹脂（SVR）は、光学透明接着剤の当社製品名です。

Empower Evolution.

つなごう、テクノロジーの進化を。

